

聖徳大学 自己点検・評価の総括（2019年度）

令和2年6月26日
自己点検・評価委員会

聖徳大学では2019年度、独自の点検・評価基準を設定して自己評価を実施しました。これは、各学科に対し統一で求める点検基準・観点と到達目標を示し、客観的な数値データによる判定と学科の自己点検・評価による判定を組み合わせる形で自己評価を行ったものです。その結果、以下のとおりの成果と課題及び今後の方向性としてまとめました。

1. 自己点検・評価で確認された教育改革への取り組みの成果

まず特筆すべき成果として、2013（平成25）年度より取り組んできた「聖徳夢プロジェクト」をはじめとする様々な教育改革へ取り組みの成果が、2019（令和元）年度の実就職率96.1%といった形で出口の成果として表れてきたことが点検・評価活動を通じて明らかになりました。

また、2017（平成29）年度に「聖徳大学アセスメント・ポリシー」を策定し、三つの方針を起点とした内部質保証体制の確立に、全学科をあげて取り組んだ結果、ディプロマ・ポリシーで示す学習成果の獲得に向け教育内容の改善に取り組むPDCAサイクルが、各学科で整いつつあることも確認できました。

さらに、学生への意見聴取に基づく改善については、心理学科では外国語教育の改善、社会福祉学科ではQ&Aの作成、看護学科での教育環境改善等への素早い対応等、各学科で出来るところからの改善に取り組んでいることも確認できました。

2. 自己点検・評価により検出された課題

各学科の自己評価結果及び「成果と課題」の記述内容から導き出される課題は次の通りになります。以下、具体的事例と共に示します。

① 自己評価を裏付けるだけの根拠やエビデンスまでが整っているのかどうか不明なものが散見されていること。

一部の学科では学生からの意見聴取については、意見聴取結果を踏まえて改善していると自己評価していますが、学生からの意見聴取を行って得た結果がどのように改善に結びついているのかが若干不明瞭といえます。また、研究・教育業績の管理について、担当授業科目と紐付けて管理していると自己評価している一部の学科についても、成果と課題の記述内容からは評価に値するだけの事実は確認できない状況です。

認証評価においては、客観的なエビデンスに基づいた記述が求められます。エビデンスの示せない主張は通りません。今後は、何らかの形で学科同士の内部監査もしく

は自己点検・評価委員会による学科に対するエビデンスの確認も、場合によっては必要になるとも考えられます。

- ② 基準や観点についての定義や解釈が曖昧なため、学科ごとに異なる解釈に基づいた自己評価を行っていると思われる基準があったこと。

『Ⅱ.教育の質向上及び基盤整備』の「①高大接続教育に対する取り組み」では、入学前課題や初年次教育の実施によって評価している学科(ほぼすべての学科)と、『学びの質の転換』につながる内容で実施できているかにまで踏み込んで評価している学科(看護学科)で自己評価が分かれる結果となっています。今後は更なる定義の明確化と共通認識に基づく自己評価が求められると考えます。

- ③ 全学をあげて入学定員及び収容定員充足率の向上に取り組む必要があること。

安定的な財政基盤の確保のためにも、各学科の入学定員及び収容定員以上の学生を確保することは喫緊の課題です。各学科は、魅力ある教育内容による学びの特色化と、教育改善による学生満足度の向上に取り組むと共に、全学的な取り組みとして中途退学者の削減に向けた取り組みを早急に進める必要があります。

3. 今後の方向性

今回の自己点検・評価の結果、各学科において教員個々のレベルでの改善活動や取り組みは概ね実施されていることが確認できました。今後は、そこで生まれた課題や得られた成果を、学科単位のマネジメントの下で集約し結合させて関連付け、組織的な取り組みの中で成果と課題を把握し、改善に取り組むことが各学科に求められます。さらに、エビデンスに基づく適切・妥当な評価がなされているかを、各学科で再度よく確認し、評価の裏付けとなるエビデンスをしっかりと整備しておくことも必要であると考えます。

4. まとめ

自己点検・評価への取り組みにより、早期に自ら課題を発見し、その改善に取り組むことで質の向上につながるようになります。その際、自己評価の視点は、外部からの評価にも耐えうる程度に厳しめに設定しておくことが望ましいと考えられます。

大学として共通の自己点検・評価項目と目標とする基準が設定され、到達目標が共通に示されたことは大きな意味を持ちます。今後、自己点検・評価と課題抽出、改善のPDCAサイクルを継続しながら、よりレベルの高い点検と改善サイクルの構築により、早期の定員充足と質の高い教育の実現を達成することが命題となります。

以上